

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 平成31年 3月 9日
(76号)

中之島こゝろ

[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 學塾・中之島事務局

人間学講座
第79講

「「禅の教えに学ぶ」

横田南嶺老師

■ 釈宗演老師

の生涯



「アメリカ合衆国から自分ファーストという個人主義が輸入されて、恐ろしい勢いで跋

扈し始めた。この思想の勢いは、防止することができない。何もかも個人主義個人主義で、いよいよ自己を中心にして考え出す。これが高じてくると、危険思想にもなる。」これは一九一九年(大正八年)に書かれた釈宗演老師の文章です。ちょうど百年前に既に「自分ファースト」という言葉があり、それに対して日本人はどうであるのか、ということを経験は問いかけておられる。今読んでも全く色あせることなく、百年前も今も通じる真理を説かれた方です。

明治時代、釈宗演老師は三三歳で円覚寺の管長になられました。そして四六歳で辞め、その後世界一周をされています。アメリカで坐禅の指導をしている際に、鈴木大拙という青年に出会い同行することになります。一年余りをかけて世界を回り、日本に戻って全国を回って教えを説いて、六十歳で亡くなりました。

お生まれになったのは福井県高浜ですが、高浜町役場に釈宗演老師の顕彰碑が建っております。政治と宗教の関係が難しい中、こうして公の場所で讃えられていくことは、老師が臨済宗、禅宗という枠を超えて、一人の人間として文化人として素晴らしい活躍をされたという何よりの証と言えましょう。

老師がお生まれになった時代は江戸幕府が倒れ、日本が大きく変わり、また近代科学の目覚めにより世界も変わってゆく時代でした。十二歳で京都のお寺に入り、当時有名な寺院で修行を重ね、数え二十

歳になったときに円覚寺に入られ、今北洪川老師に師事されました。そして二五歳で修行を終えられ老師となりました。ところが型破りなことに、その二年後に慶應義塾大学に入り、英語を学ばれます。時代の先見性を持っておられたのでしょうか。その後もセイロンに渡り、人種差別や植民地の西洋人に搾取される様子等を見聞し、世界情勢、危機意識を肌で学んで帰国されたのです。

■ 苦しみの世界をつくるのは心

一八九三年、老師三三歳、

アメリカ・シカゴで行なわれた世界万国宗教会議に出席されます。その会議での老師の演説は、多くの方々に感銘を与えました。ダーウィンの進化論の登場により、神の概念が揺らぎ、動揺する中行なわれたその会議において、東洋に素晴らしい教えがある、その教えを体現している姿があると西洋の人々は驚いたのです。それに感動した哲学者ポール・ケイラスが鈴木大拙とともに古典の翻訳に取り組み、それは今日、禅が世界に広まるきっかけとなりました。釈宗演老師は一年の



三分の二を講演に費やしました。『Love is God』と説き、儒教も仏教もキリスト教も一つであると伝え続けたのです。

老師はシカゴの宗教会議で何を伝えられたのか。仏陀の教えは、神様が何かを創ったという教えではなく、因果の教えです。老師は会議において、仏教の基本である因果と結果であるということをお話されました。「おのれ良きことをすればおのれ清し。おのれ悪しきを作さば、おのれけがる。おのれ

悪しきを作さざれば、おのれ清し。けがれと清浄とは、すなわちおのれにあり。いかなる人も他人をば清むる能わず」と、お釈迦様の教えの根本を説かれたのでした。

そしてさらに、この迷いや苦しみの世界を作り出すのは、我々の心であると説いたのです。これはキリスト教にはない教えです。苦しみの世界が心から作り出したものであるなら、心をおさめる実践をすることで、迷いや苦しみを減らすことができる、という仏教の教えの基本を話されました。

■ 普遍の真理はただ一つ

釈宗演老師は、世界の宗教家と対話を重ねる中で、これからは、異なる文化や教えも学び、お互いが理解し合わねばならないと思われました。そののちの演説で、老師は平和について話されておられます。老師は、私達すべての人類にとって普遍の真理と呼べるものは、ただ一つだけである、とし「この唯一普遍の真理の輝きの前にあつては、万人は平等に照らし出され、決して差別されるものであつてはならない」と説かれました。普遍的な人類愛を実現させるという大きな目的が大切であることを伝えられたのです。さらに戦争は絶対に許されないものとし、「(戦争は)普遍の真理に向かうとする歴史の大きな流れに逆らおうとするもの」と言われました。西洋の国々の多くがアジア諸国を植民地としていた当時において、大変勇気ある演説だったと言えます。人種・文化・思想・宗教の違いによって差別があつてはならないこと、生きとし生けるものは普遍の真理に抱かれて生きていくことを説かれたのでした。仏教の目指す「人類愛」とはなにか。老師の『観音経講話』のなかに、「我々は観世音菩薩の現われである」とあります。観音とは、慈悲と智慧と勇猛心の現われのことです。その大智慧の根本は、我々は生まれながらにしてすでに備えている。怒りや貪欲などで心乱れるときも観音様に手を合わせることで、私たちはもとより持っている素晴らしい智慧を見出すことができるということを釈宗演老師は伝えてくださっているのです。

(抄録 中川千都子)

《グループ討議》

□ 講師 横田南嶺 老師

「禅の教えに学ぶ」

進行 小南昭雄 塾生

【Aグループ】

- ① 恩を感じるころ（感恩）
- ② 普遍的な人類愛
- ③ 我が^{たんにん}懺忍の^{さや}鞘に収めよ

【Bグループ】

- ① 生まれた時は慈悲の心を持って生まれてきた
- ② 感恩の精神Ⅱおかげさまと周りのご恩
- ③ 手と手を合わせてⅡぬくもりを感じるのがいのち

【Cグループ】

- ① 命を感じるⅡ普遍の真理
- ② 手を合わせて親のことを思い出す
- ③ 我々は慈悲など自分自身が観音様である

【Dグループ】

- ① 感恩Ⅱ親に感謝
- ② 迷い苦しみⅡ自分の心
- ③ 観音の心Ⅱ自分の内

【Eグループ】

- ① 修養座右の銘
- ② 観音の精神
- ③ ヒトの命を無駄にしない



《読書会》Aグループ

・指導 近藤宏枝世話人

・テキスト 森信三『一語一会』

2月

・進行 北嶋紀子塾生

二月二日

畏友と呼びうる友をもつことは、人生の至樂の一つといつてよい。

二月五日

いやしくも人間と生まれて多少とも生きがいのあるような人生を送るには、自分が天から受けた力の一切を出し尽くして、たとえささやかなりとも、国家社会のために貢献するところがなくてはならぬでしょう。

二月二十四日

物事は一おう八〇点級の出来映えでよいから、絶対に期限内に遅れないこと、これ世に処する一大要訣と知るべし。

二月二十五日

人間として最も意義深い生活は、各自がそれぞれに応じ報恩と奉仕の生活に入ることによって開かれる。

二月二十六日

人間は一生のうち逢うべき人には必ず逢える。しかも一瞬早すぎず、遅すぎない時に――



《読書会》（Bグループ）

・指導 中川千都子副代表

・テキスト 『ありがとうございます』

・進行 大西由香塾生

● 人にはどのような天命があるのでしょいか？自分の果たすべき役割を、一日も早く、はっきりと理解しなければ、この世で一体何をすればよいのか、迷うだけで一生を終わってしまうものです。

● 人生の真の目的とは、「悟りを開く」ことです。即ち本心を開発して、この世に感謝の花を、無限に咲かせることなのです。

● 氣力を湧き出させ、心を積極にし、行動を前向きにする為の秘訣は、プラスの言葉だけを使うことです。たとえ今現在の自分の状態が、過去に使ってきたマイナスの言葉の影響で、無氣力で、消極的で、後ろ向きであっても、プラスの言葉を駆使すれば、前向きになれるのです。

● 言葉は「諸刃の剣」です。使い方が正しければ、大きく役に立つものです。使い方を間違えば、大害を与える非常に危険なものです。真理の言葉・プラスの言葉を駆使すれば快刀乱麻を断つ如く、どんな業想念の縛りを断ち切って、本心の自由を取り戻して、無限の無限の幸を得ることができるようになります。

● たとえば親が子どもに勉強させようとして、「もっと勉強しなさい」と言ったら、心では子どもに対して「お前は勉強ができていない。努力していない。成績が悪い」というようなマイナスの言葉を投げかけているのです。だから「勉強しなさい」と言えばいいほど、「勉強していない」というマイナスの言葉を、槍のように突き立てているのです。

《課外講座》国民の師父 森 信三先生に学ぶ

◇ 進行 西村俊幸世話人

◇ 指導 近藤宏枝世話人・田中樞子塾生

◇ テキスト 森信三先生『一日一語』より

各月9日の至極の一言を参加者で輪読。

一月

「天地始終なく人生生死あり」 これは頼山陽の十三歳元旦の「立志の詩」の一句ですが、これをいかに実感をもってわが身に刻み込むかが我われの問題です。

二月

悟りとは、他を羨まぬ心的境涯ともいえよう。

三月

いかにしてテレビに打ち克つ子どもにするかー
教師たるものはこの一点に、道徳教育のすべてを
かけねばなるまい。

四月

人間のシマリは、まず飲食の
慎みからー

次には無駄遣いをしないこと。
そして最期が異性への慎み。

五月

睡眠は必要に応じて伸縮自在たるべし。

「何時間寝なければならぬ」というような固定観念
を捨て、必要に応じて五時間・三時間はもとより、時
には徹夜も辞せぬというほどの覚悟が必要。

六月

玄米食は、我われ日本人には「食」の原点である。



それゆえ玄米食を始めると、かえって味覚が鋭敏になる。

七月

道元の高さにも到り得ず、親鸞の深さにも到り得ぬ
身には、道元のように、「仏になれ」とも言わず、
また親鸞のように「地獄一定の身」とも言わず、たゞ
「人間に生まれた以上は人らしき人になれよ」と教
えられた葛城の慈雲尊者の、まどかなる大慈悲心の
前に、心から頭が下がるのです。

八月

才無きを憂えず
才の恐ろしさを知れ

九月

人間何事もまず十年の辛抱が肝要。
そしてその間抜くべからず、奪うべからざるは基礎
工事なり。されば黙々十年の努力によりて、一おう
事は成ると言うべし。

十月

母親は単に家族の一員でなくて、まさに家庭の太陽
である。

十一月

今はわたくしにはいわゆる専門というものは無くなつ
た感じが深い。もし強いて言うなれば、今後のわた
くしには生きることが専門となったという外ない。

十二月

職業とは、人間各自がその「生」を支えたと共に、
さらにこの地上に生を受けたことの意義を実現する
ために不可避の道である。されば職業即天職観に、
人々はもつと徹するべきであらう。



《大悟徹底》

寺田一清先生寄稿録

「昭和天皇の御製」

平成22年9月寄稿



去る八月一八日無事、不二山頂より下
山、翌朝熱海の興亜観音にて、昭和天
皇記念館館長の仲曾根吾郎さま、一行
六名様とお出会致しました。

かねてより森信三先生の著述を熟読吟味くださって
おられるだけに、その後品格が十分に拝察でき、多年
にわたる知己に遭遇しえた喜びを噛みしめた次第です。
仲曾根先生よりお礼状に添えて『昭和天皇の御製』
『昭和を語る』の二冊のご寄贈にあずかりました。

とりわけ『昭和天皇の御製』は、何よりありがたく
拝読に及びました。森信三先生も枕頭の書とせられた
そのいきさつも十分に納得せられました。

わたくしが唯一記憶にとどめておりますお歌は、山形
県の県歌として著名なものです。

広き野を流れゆけども最上川

海に入るまで濁りやうけり

このお歌は、大正十五年御年二六歳の御製とうかがい、
悠揚たる壮大な調べに改めて感動致しました。
また、「松上雪」と題せられ

ふりつもる雪にもたへていろかへぬ

松ををしき人もかくあれ

このお歌は終戦翌年の御詠であることに、一層心にと
どめたいものであります。この度、この御製集に接し
得た喜びを感謝申し上げます。

「二宮ますみ読書会」百回記念報誌集より抄録

《お薦め書籍》

『1945年のクリスマス』

ゴードン・ピアテ・シロタ 著



出版 朝日新聞出版
頒価 九二九円(税込)
ISBN-13 978-4022618973

日本の女性が幸せになるために必要なことは何か。23歳の若さで日本国憲法草案の作成に加わり、現在の人権条項の原型を書いた女性の自伝。50年ものあいだ口にするのができなかった、日本国憲法草案作成9日間の迫真ドキュメント！

ゴードン・ピアテ・シロタ 1923年オーストリア・ウィーン生まれ。5歳の時、ピアニストの父に伴い来日。その後10年を日本で過ごす。39年、渡米。大学卒業後、戦争情報局やタイム誌で働く。45年、GEM民政局のスタッフとして再来日、日本国憲法草案作成などに携わる。47年渡米(帰国)。以後、ジャパン・ソサエティ、アジア・ソサエティのディレクター等をつとめた。2012年逝去。

《先哲に学ぶ生き方》

森信三 先生

「いのちの宝庫」

読書とは、われわれが心の感動を持続するための最もたやすい方法であります。したがって真の読書は、この現実界のもろもろの理法を明らかにするだけでなく、この二度とない人生を全的充実をもって生き貫くための力を与えられる「いのちの宝庫」だとも言えましょう。

森信三

「運命を創る一〇〇の金言」より

《人間学塾・中之島》

■ 宿泊研修

*日時 平成31年4月13日

*場所 大阪大学中之島センター 10 F

大阪市北区中之島四二二三

*講師 松岡 浩氏

「時を守り・場を清め・礼を正す」

「るるる」岐阜県生まれ。大垣商業高校卒業後、イビデン(株)勤務から家業のスーパーマーケットの経営を経て(株)タニサケを設立し「ゴミブリキャップ」を爆発的にヒットさせる。2000年社長職を辞し、会長となる。「中小企業の手本となる会社」を目指したいと、現在は講演活動や社会活動に取り組み、毎月一回無料でタニサケ塾を主宰し「日本一の知恵工場」経営の秘訣を伝授している。

【新期入塾生ご紹介 2月より】

阿路川 治子さん

〒535-0031 大阪市旭区九

小澤 聡さん

〒619-0215 京都府木津川市

津組義宏さん

〒715-0016 岡山県井原市

清水康史さん

〒534-0027 大阪市都島区〇一

《淀川掃除に学ぶ会》

短信 志村隆夫

三月三日 お早うございます。

今日は朝から曇天で 天気予報は午後から雨が降ることでした。

朝九時集合で 30人のメンバーが集まりました。集まったゴミは25個、ガラス瓶が1袋、カンズメの空き缶二袋でした。

市の職員さんが業者の方に頼んでもらったので、ゴミ処理はしなくて良かったです。

来月は河川局の都合でゴミの収集業者さんが決まらないので、お休みです。

五月からは朝八時から開始します。

今日は四ヶ月ぶりに佐藤浩一さんが参加されました。

